

【全席自由】

対象：小学校高学年以上

※託児所をご用意いたしません。
未就学児の入場はご遠慮願います。

演出：藤枝 希
振付：普入圭実子
歌唱指導：堀部一寿

(お問い合わせは)

劇団アルテ

☎0298-52-0093

Studio Arte

劇団アルテ第5回公演

十二匹きのねこ

作／井上ひさし

決定版

日時：'93年3月21日(日)

昼の部／開場十二時三十分、開演十三時〇〇分
夜の部／開場十六時三十分、開演十七時〇〇分

場所：アルスホール
(つくば市立中央図書館211)

●後援

茨城県教育委員会
つくば市教育委員会
朝日新聞社つくば支局
毎日新聞社つくば支局
読売新聞社つくば支局



井上ひさし氏の挑戦状「決定版 十一匹きのネコ」

演出／藤枝 希

私が最初に井上作品に触れたのは（年がバレるけれども）おそらく『ひょっこりひょうたん島』だろう。尤もかなり幼少の頃なので（本当です）ストーリーなどは残念ながらよく覚えていないが、“波をチャプチャプチャプチャプかきわけて～”というあのテーマ・ソングは今でもしっかり歌えてしまったりする。同年代の友人たちも、口々に面白かったよと言う『ひょうたん島』は、すごいパワーを持っていたのだ。

さて、そうしてこの『十一匹きのネコ』である。

ゴミ捨て場の土管に住むお腹を空かせた十一匹の野良ネコが、百匹や二百匹のネコではとても食べ切れないという大きな魚の話を知り、皆で捕まえようと旅に出る。仲間割れや様々な事件を乗り越えてお腹いっぱい魚を食べたネコたちは、美しいその湖の畔を野良ネコの天国にしようと決めるのだが……。

馬場のぼる氏原作の絵本を基に、初めはTV用として書かれたこの作品は、その後改めて二幕物の舞台用戯曲となる。初演は'71年のテアトル・エコーだから、もう20年以上前のことになるわけだ。しかし、これも井上作品の持つパワー故か、今もなお多くの劇団やサークルで上演されているし、学校演劇でも、毎年必ずどこかで取り上げられている。私自身、ご多分にもれずの高校演劇時代に読み、いつか演ってみたいと思っていた作品のひとつだった。

判り易いストーリー、個性的なネコたち、歌と踊りがいっぱい、楽しくてエネルギー溢れる『十一匹きのネコ』は、そしてこの劇団アルテという集団に向いているように思われた。戯曲としても、今までの公演で使ってきた私のつたない台本とは違って、きっちりと計算されている。オリジナルもいいけれど、ちゃんとしたプロの作品に取り組みたい……。

とはいえ仲々「じゃあやろう！」と言えなかったのは、この戯曲自体が持っているある独特な空気のためだった。優れて風刺的であるが故に、書かれた'70年代初頭の時代性・風俗といったものが大きなポイントになっているのだ。

主人公のちゃん太郎はヒーローとして登場しながら、終幕、華やかな繁栄を謳歌するネコの国の片隅で、かつての仲間たちに暗殺される。あたかも急激に発展してゆく日本の裏側を暗示するような設定は、勿論現在でも色褪せてはいないが、ベトナム戦争、GI、高度経済成長期の光と影などという言葉の持つ意味を、観客の側はともかく、10代も含む若いメンバーたちがどこまで理解できるだろうか……。

ところがその問題を解決してくれたのもまた、作者である井上ひさし氏本人だった。'71年度版から風俗を取り除き、もっと普遍的なものにしたい、加えてネコの集団を書き分け、もうひとつ骨太なテーマで全体を貫きたいと考えていた氏は'90年、新たな構想の下に大幅な書き直しをする。それが今回上演する『決定版・十一匹きのネコ』である。

20年以上も愛されてきた作品を書き直すからには相当の決意と自信が必要だろうと思うのだが、私は初めてこれを読んだとき、ラスト・シーンで背中がゾクゾクした。やられた！と思った。成程、『十一匹きのネコ』は、こう書かれなければいけなかったのだ。

しかし、それにしても、実際書き直してしまうパワーと想いは、やはりすごい。

ラスト・シーンに集約されるその想いを受け止め、伝える私たちには、作者に負けない、いや、それ以上のパワーが要求されている。これは作者から演ずる者への挑戦状なのだ。

いやはや、大変な戯曲を選んでしまったものである。

願わくは、井上ひさし氏と私たちのパワーのぶつかり合いがエネルギーで楽しい舞台となり皆さんのお目に届きますことを……。

あらすじ

◎一幕

- 1 [口上がわりにネコが啼く]
プロローグ、口上がわりに『にゃあごろソング』
- 2 [10+1]
にゃん太郎、帽子を追って登場し『春を夢見て』
土管に住む十匹のネコと出会う。野良はいやだというネコたちに、にゃん太郎は…『野良猫讃歌』
- 3 [空腹退治]
土管の向こうのお堀に、釣竿投げたら…『ネコの大漁唄い込み』～釣れたものの、えものはメダカ
- 4 [お腹が空いたのブルース]
なまじっかちょこっと食べたら、前よりぐんとお腹が空いた『お腹が空いたのブルース』
- 5 [芸術はハラのたしになるか]
空腹は気のせい、と夢中でピアノを弾き、歌い、行進するが…『飲んだくったマーチ』
- 6 [北の空の大きなお星さま]
雪の舞う墓地で『こんど生まれてくるときはのレクイエム』戻ってきたにゃん太郎は集団自殺を防ごうと『悪口唄』。～にゃん作老人も加わって、いざ大きな魚のいる湖へ！『十一匹のネコが旅に出た』
- 7 [大根畑の身の上話]
旅に出たもののお腹が空いて、大根畑の大根食べた。ひとごちついたネコたちの身の上話が始まる『君と会えたから…』『ボーイング727』『酒屋のマスケット』『ああ涙の世界』『ぼくの応援歌』『大きな声ではいえないけれど…』『生きていた証～君と会えたから…』～大根畑の夜がふける

◎二幕

- 8 [小さな湖]
やっと着いたと思ったら、そこは小さな湖だった…そこで、太郎の思いつき！
- 9 [雲に追いつけスースススー]
継ぎはぎだらけの帆を張って…風は、吹かせるんです！『雲に追いつけスースススー』ぐんぐん進むネコいかに、岸にぶつかり、どしーん！そこは…
- 10 [大きな魚]
大きな湖～いかだの舳先で、太郎は湖面を睨んででいる。『魚見えたか節』と、そこへ途方もなく大きな魚が浮き上がる…うわーっ！！
- 11 [体当たり]
湖の岸～傷だらけのネコたち、にゃん太郎は水上単発飛行機での体当たりを試みるが…、『ネコの英雄讃歌』～みなさん、手ごわい相手ですよ。
- 12 [仲間割れ]
『ぼくは自分がわからない』お腹がすくって悲しいね～世界は気でできている話。仲間割れ『都会はいいぜ』VS『すばらしき自然』
- 13 [脱落者]
月夜～にゃん十一とにゃん八、小船で脱走。そこへ大きな魚、パクッと十一を呑み込んで…くしゃみで脱出、仲直り。～大きな魚、岸辺で『魚の子守唄』を唄う。そこでまたまた太郎の名案…！
- 14 [やさしく殺そう]
ネコたちの『魚の子守唄』～手にした棒を大きな魚めがけて打ちおろす！『ネコの大漁唄い込み』～腹の虫をなだめて、食べ物をたくわえる？
- 15 [最後の夢]
あれーっ？魚がホネになっている…げっぶ。みんな仲よくやろうぜ！『野良猫天国』
- 16 [エピローグ]
冬～そしてネコたちは…『君と会えたから』

◎スタッフ

演出・作曲／藤枝 希
振付／普入 圭実子
歌唱指導／堀部 一寿
ピアノ／勝間田 真理

◎キャスト

むやみにガンバルにゃん太郎
穩やか大らか仏のにゃん次

旅廻り座長のにゃん蔵
保健所嫌いのにゃん四郎

招き猫のにゃん吾
空飛びのにゃん六
ドライヤーこわいのにゃん七

猫なで声のにゃん八

△昼の部
△夜の部
▽葉月 弥生
(中条 朋子)
林田 ぱっち

猫っかぶりのにゃん九
スイッチョのにゃん十
ネコババのにゃん十一

ゴミ積みかえ駅のにゃん作老人

山崎じゅんこ
(縣 秀平)

黒子ネコ

大久保 雅代
牧島 直美

大きな魚(声)

堀部 一寿

◎写真

江塚 晶子
小谷 泰則
中村 真
鈴木 幸子
渡辺 木綿子
和田 初恵

()内は代役